

市長	副市長	部長	課長	課長補佐	主査	担当	取扱者

様式第2 (第8条関係)

市民活動助成金交付申請書

令和5年 4月 17日

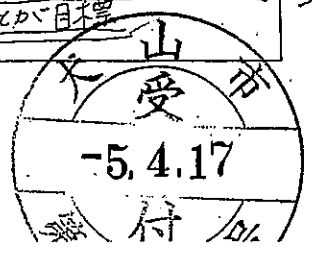
犬山市長

原 欣伸 様

団体の名称 NPOたのぼろ
 所在地 犬山市長者町4-129
 代表者 鈴木 緑
 (役職) (代表)

市民活動助成金の交付を受けたいので犬山市市民活動助成金交付要綱第8条の規定に基づき下記のとおり申請します。

1. 事業名	有機・自然農法で犬山の未来づくり事業
2. 助成金交付申請額	金 97,000円 (総事業費 194,000円)
3. 助成部門	(1)はじめの一步部門 (2)市民活動助成部門 (3)コラボ・マッチング部門 (1)~(3)のいずれかに丸を付けてください。 ※コラボ・マッチング部門の場合、協働する団体の名称
4. 事業実施期間	令和5年 4月 1日 ~ 令和6年 3月 31日
5. 事業の対象	犬山市民、市外の方どなたでも
6. 事業の目的 (上記事業対象のどのようなニーズに応えようとする事業ですか?)	『安心安全な食』と『持続可能な環境』を未来に残すことが最大の事業目的です。それには有機・自然農法が有効ですが、そのノウハウを学びたいという声が増えているため、まずはその学びの場を提供します。
7. 事業の内容 (上記目的のために、この事業をどのように実施する予定ですか?)	① 有機・自然農法を学びたいという方への技術者の伝授 (人づくり) → 年6回 ② より安心安全な食料を学校給食に取り入れてほしいという保護者の声にたいして、 ために食育応援団への登録 (食育・健康づくり) → 今年度はたまねぎを50kg ③ 活動のPRとメンバー募集 → 千石を市内全小中学校へ配布 (5,500枚) (予定)



8. 事業スケジュール (この事業を遂行するために、いつ頃、何をしますか?)
 ※コラボ・マッチング部門の場合は、役割を担当する団体名も記入してください。

時期	内容 (担当する団体名※)
令和5年 4月	苗久を立てる、土づくり、総会、チラシデザイン、イ後援申請準備
5月	春夏野菜の植え付け (トト・ミコト・ピジョン・ナス、キュウリ) <small>(大山広報への掲載文提出(5/16(火)まで)、食育支援団への登録および産業課に相談)</small>
7月	夏の畑管理法 (草とり、土づくり) <small>(大山広報7月号で講座のお知らせ、市内全小中学校へのチラシ配布)</small>
9月	秋冬野菜の植え付け (ブロッコリー、たまねぎなど) <small>(チラシとSNSでメンバー募集)</small>
11月	腐葉土作り、霜対策準備 (もみから等) <small>(大山広報11月号で再び講座のお知らせ)</small>
12月	冬の畑管理法 (肥料や霜対策のタイミング等) <small>(来年の企画、企画(総まとめ) → 事業報告書の作製)</small>

9. 期待できる効果・成果

(1) 事業の対象に対して、どのような効果が期待できますか? (地域社会への効果などを記入してください。) ※コラボ・マッチング部門の場合は、協働で実施する理由も記入してください。

- ① 大山市民に学びの場を提供し、有機・自然農法を伝授する事で「食」や「環境」に関心を持つ人が増える事が期待される。
 ↳ 現在すでに家庭菜園を始めたり、新たに農地を借りるメンバーがおり、休耕地の解消も期待できる。
- ② 東ふれあいセンターを講座の拠点とすることで大人数もカバーでき、老若男女に幅広く告知できるようになる。→ 市民交流が以前より盛んになり、今後ますますメンバーが増えればコミュニティの輪が広がること期待される。

(2) この事業の終了時点では、事業対象がどのようになる状態 (成果) を目指しますか? また、それはどのように確認しますか? (実績報告時に自己評価をします。)

- 参加者が有機自然農法のノウハウを学ぶことで、共同で耕作し、栽培品目を増やしていくことができる。→ 昨年度の1品目(さつまもみ)から増えたかどうかに確認する。
- メンバーが増えることで耕作面積を増やしていくことができる。
 ↳ 収穫量が上がればたまねぎ50kgを卸すことが可能で、それ以上を目指すこともできる。どのくらい学校給食に卸せたかに確認する。
- 20人の人づくりを目指す。→ 講座の参加人数で確認する。(日曜人数 11人 → 20人)

(3) 事業を実施することによる波及効果がありましたら記入してください。

- ① 今回の事業でまずは第一段階の「学び」の場を作ること、第二段階の「生産」につながる。
- ② 耕作面積とメンバーが増えることで収量を確保し、市民(特に市内小中学校)に安心安全な「食」を届けることができる。
- ③ 耕作放棄地の解消や防災にも役立ち、生態系も守られるため「大山のまちづくり」にも寄与していると考えています。

10. 活動費用の内訳書

【収入】

科目	予算額 (円)	内訳
助成金	97,000	市民活動助成金
参加費(会費)	54,000	参加費(大人) 1000円×7人×6回 = 42,000 参加費(小児) 500円×4人×6回 = 12,000
寄付	15,000	メンバーより
自己負担金	28,000	代表より
計	194,000	

【支出】

科目	予算額 (円)	内訳
報償費	16,500	講師への謝礼金 (25,000円×6回 = 150,000円) 講座に係る管理費(毎回の苗管理・肥料の蒔き作りと管理・準備・指導・相談) (15,000円)
旅費	1,500	かつり代 (250円×6回 = 1,500円)
消耗品費	16,984	種苗代 (300円×20(株) = 6,000円) - 肥料代 (2,000円×2回) = 4,000円 (1,000円×3(束) = 3,000円) - 雑費 (1,000円)
印刷製本費	10,516	チラシ代 (5,500枚 片面 A4)
通信運搬費	0	
手数料及び保険料	0	
人件費	0	
使用料及び賃借料	0	
計	194,000	

11. 本申請書にかかる担当者の連絡先

氏名:

電話番号:

住所:

E-mail: